

最近の本学の取組等について
2024. 3 ~ 2024. 6

1. 藤田医科大学と連携・協力に関する基本協定書を締結

本学と藤田医科大学は、連携・協力を強化するため、2024年4月18日に基本協定書締結式を行い、同日付けで基本協定書を締結しました。

本協定は、医学系大学と工学系大学が連携し、両大学の持つ最先端技術・知見を応用して、医療現場のさまざまな課題解決や、画期的な治療の研究開発に取り組み、未来の医療を創造することを目的としています。

今回の協定締結により、橋渡し研究につながる工学系大学研究シーズの社会実装に向け、シーズの共有や人材交流等を通じた連携をさらに強固なものとするのが期待されます。さらに、それぞれの強みを生かした専門教育、社会貢献でも連携を進め、幅広い分野において優れた人材を社会へ輩出することを通じて、地域全体の活性化へも貢献することを目指します。



小畑本学学長（左）と湯澤藤田医科大学長（右）

2. 恵那市と包括連携に関する協定書を締結

本学と恵那市は、大学と市役所が包括的な連携のもとに、次代を担う人材の育成を行い、地域社会及び学術研究の発展に寄与することを目的として、2024年4月30日に包括連携協定書締結式を行い、同日付けで包括連携協定書を締結しました。

同市とは、2023年度に上矢作地域の観光施設整備計画を連携して策定しました。この連携活動を契機に、本学の人的資源や研究成果を活かして同市の人材育成やまちづくりなどの地域活性化を一層推進するため、包括連携協定締結の検討を進めてきました。今後は、市内の事業者との産学官連携や同市をフィールドにした実証事業の展開などが期待されます。



小坂恵那市長（左）と小畑本学学長（右）

3. ネーミングライツ事業実施契約の締結

本学は、本学の施設等に愛称を設定していただくことでステークホルダーの皆様との連携を拡大し、本学の教育及び研究環境を向上させるため、[ネーミングライツ事業](#)を実施しており、この度、セイコーエプソン株式会社及び Sky 株式会社とネーミングライツ事業実施契約を締結しましたのでお知らせいたします。本学は今後も本事業を推進していきます。

①ネーミングライツパートナー：セイコーエプソン株式会社

対象施設：NITech Hall ラーニング・コモンズ

愛称： EPSON STUDIO（英）、エプソンスタジオ（日）

契約期間：2024年4月1日～2027年3月31日



NITech Hall 1階入口



EPSON STUDIO 内

②ネーミングライツパートナー：Sky 株式会社

対象施設：大学会館1階大食堂

愛称： Sky Cafeteria

契約期間：2024年5月1日～2027年4月30日



大学会館入口



Sky Cafeteria 内

受賞・表彰等

1. 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」にてS評価を獲得

本学は、2017年に文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」に採択され、2022年度まで6年間の事業を実施してきました。

2024年3月27日（水）に科学技術振興機構（JST）から本事業の[事後評価結果](#)が発表され、本学は、最高評価の「S」を獲得しました。

【JSTからの評価コメント】

女性研究者比率の低い工学系単科大学が、地域における豊富な産学官連携の実績を活かし、学内はもとより地域の女性研究者・技術者の活躍促進を目指し、意欲的な取組を全学一体となって進めた。地域産業界と連携し「多様性人材育成プログラム（NITech CAN for ID）」を構築するとともに、同窓会組織と連携し企業で活躍する女性研究者・技術者を大学へ招聘する「プロジェクト特任教員」、女性研究者の研究力向上を目指した「女性研究者研究促進制度」や「女性研究リーダー養成塾」など特色ある取組を行った。女性研究者在職比率、女性教員管理職比率等に係る目標の全てを達成し、また、女性研究者の科研費新規採択数、地域企業との共同研究費契約件数を大幅に増加させたことは高く評価できる。さらに、長期的な視点で工学系女性研究人材を育成する取組として「スタートアップ助教制度」を創設し、若手女性研究者の学位取得支援を行っており、今後の次世代育成の展開が期待できる。工学系分野の研究者・技術者の女性割合は全国的に低い状況が続いており、今後は、本事業での取組好事例を全国の大学、企業へ波及させることを期待する。

2. 音声技術に関する世界最高の学術賞 「IEEE ジェームス・L・フラナガン賞」を受賞

受賞者：情報工学類 徳田 恵一教授

概 要：本学徳田教授が、長年にわたる音声合成および音声信号処理に関する先駆的な貢献を行ってきたことが評価され、IEEE ジェームス・L・フラナガン賞を受賞し、2024 年 4 月 14 日～19 日に韓国ソウルで開催された国際会議「2024 IEEE International Conference on Acoustics, Speech, and Signal Processing (ICASSP 2024)」において授与式が行われました。

IEEE ジェームス・L・フラナガン賞は、世界最大の電気情報系の国際学会である IEEE が関与し、過去に江崎 玲於奈氏、赤崎 勇氏、中村 修二氏などのノーベル賞受賞者も受賞した、科学技術分野の最高の学術賞「IEEE Technical Field Awards (TFAs)」のうち、音声・オーディオ技術分野において顕著な業績をあげた研究者・技術者に授与されるものです。



3. 令和6年度科学技術分野の文部科学大臣表彰における受賞

文部科学省では、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者を「科学技術分野の文部科学大臣表彰」として顕彰しています。この度、本学の研究者が以下の各賞を受賞し、令和6年4月17日（水）に文部科学省にて表彰式が執り行われました。

①科学技術賞「開発部門」受賞

科学技術賞「開発部門」は、我が国の社会経済、国民生活の発展向上等に寄与し、実際に利活用されている画期的な研究開発若しくは発明を行った者を対象とする賞。

受賞団体：電気・機械工学類 平田 晃正 教授、小寺 紗千子 准教授

兵庫県立大学 ESSAM ALI HAMMAM AHMED RASHED 教授

受賞対象研究：新規感染症感染者数及び死者数予測システムの開発

②若手科学者賞 受賞

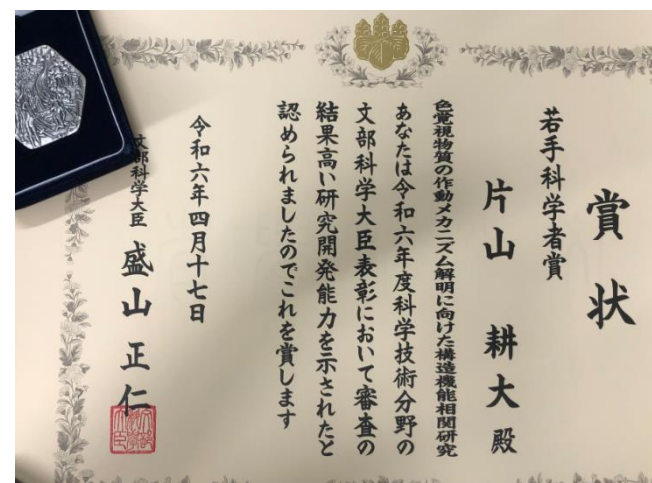
若手科学者賞は、萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた40歳未満の若手研究者を対象とする賞。

受賞者：生命・応用化学類 片山 耕大 准教授

受賞対象研究：色覚視物質の作動メカニズム解明に向けた構造機能相関研究



小寺准教授（左）、平田教授（中央）



4. 第69回（令和5年度）前島密賞を受賞

受賞団体：電気・機械工学類 菅野 敦史 教授（国立研究開発法人情報通信研究機構 ネットワーク研究所 フォトニックICT研究センター 光アクセス研究室・上席研究員）

他 国立研究開発法人情報通信研究機構所属4名

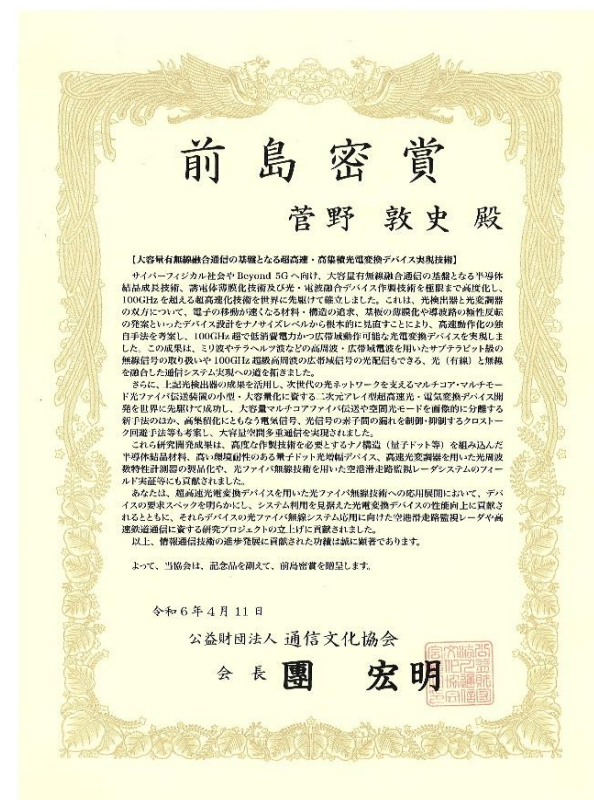
受賞対象研究：大容量有無線融合通信の基盤となる超高速・高集積光電変換デバイス実現技術

概要：大容量有無線融合通信の基盤となる半導体結晶成長技術、誘電体薄膜化技術及び光・電波融合デバイス作製技術を極限まで高度化し、100GHzを超える超高速化技術を確立、また光ファイバ伝送装置の小型・大容量化に資する二次元アレイ型超高速光・電気変換デバイス開発にも成功し、大容量空間多重通信を実現したことに対し、情報通信技術の進歩発展への貢献が顕著であるとして受賞しました。

前島密賞は、近代国家の建設に当たり、社会の基盤となる郵便や物流を初めとしたネットワークを整備し、国民の暮らしに多大な利便性をもたらした通信事業の創始者前島密の功績を記念し、コミュニケーション分野でその精神を伝承発展せしめるため、1955年（昭和30年）に設けられた賞で、情報通信及び放送の進歩発展に著しい功績のあった者が対象となっています。



菅野教授（左端）



5. 電波の日における東海総合通信局長表彰

受賞団体：情報工学類 大塚 孝信 准教授

東海国立大学機構 大山 慎太郎 准教授

概要：医療機器の位置追跡と稼働状況の可視化をIoTを用いてリアルタイムに把握するデバイスを開発し、病院内の医療機器の最適化を図ることにより、医療従事者の負担軽減及び安全な医療の提供を行うなど、医療における電波利用の普及・発展に多大な貢献を行ったとして表彰されました。

東海総合通信局長表彰は、電波利用・情報通信の発展に貢献し、その功績が顕著であった個人及び団体に対し、東海総合通信局長から表彰を行うもので、昭和25年に電波の利用が広く国民に開放されたことを記念して設けられ、今年で74回目となる「電波の日」における記念式典にて表彰が行われました。

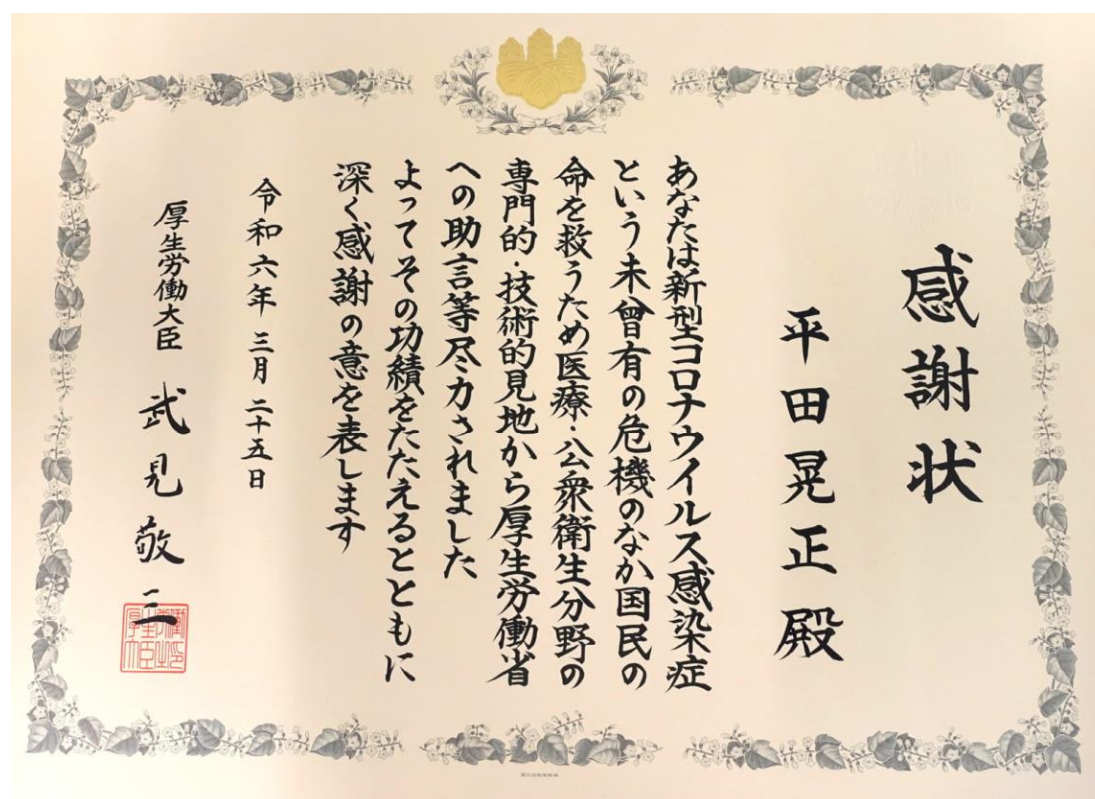


東海総合通信局長（左）、大塚准教授（右）

6. 新型コロナウイルス感染症対策への貢献に関して厚生労働大臣より感謝状を受領

電気・機械工学類及び先端医用物理・情報工学研究センター長の平田晃正教授が、新型コロナウイルス感染症対策への貢献に関して、厚生労働大臣より感謝状を受領しました。

平田教授は、新型コロナウイルス新規感染者数の予測を実施、感染症対策アドバイザリー・ボード会議に情報提供するなど、技術的見地から貢献を行っており、その功績に対して、感謝状が送られました。



学生の受賞

1. 本学学生の開発したロボットが、ギネス世界記録™「最小のヒューマノイドロボット」に認定

認定対象者：工学専攻知能情報プログラム 三矢 達彦

認定：ギネス世界記録™「最小のヒューマノイドロボット | smallest humanoid robot」

概要：本学学生の開発したロボットが、世界最小のヒューマノイドロボットとして、2024年4月6日付でギネス世界記録に公式認定されました。日本による世界記録の奪還は17年ぶりとなる上、ロボットのサイズについても、前記録の141mmの半分以下である57.676mmという大幅な記録更新となっています。小型化実現のため、独自に発明した脚部構造を採用しており、設計としても革新的なものです。スマートフォンでロボットを遠隔制御できるアプリと合わせて開発しました。



2. 本学学生チームが、第20回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会で「経済産業大臣賞 ビジネス大賞」を受賞

受賞チーム：SAZO

情報工学科 ギル マロ（代表）、キム ドンヨプ、キム ヒュンウ、家田 煌矢

電気・機械工学科 小笠原 美桜

テーマ：「AI×越境EC ワンクリックで海外から買い物！」

概要：キャンパスベンチャーグランプリは、日刊工業新聞主催による学生ビジネスプランコンテストで、キャンパスベンチャーグランプリ出場をきっかけに起業して活躍している先輩が多いことから、学生起業家の登竜門として知られています。本学学生チーム「SAZO」は、8つの地域大会を勝ち抜いた12チームが出場した全国大会の最終審査において、「経済産業大臣賞 ビジネス大賞」を受賞しました。なお、本チームは東海地域の大学生等を対象とした大学発ベンチャーの創出と起業家育成を目的とした「Tongali ビジネスプランコンテスト 2023」においても最優秀賞等を受賞しています。



3. 本学学生チームが、JPHACKS（ジャパンハックス）2023 で「Best Audience Award」等の複数の賞を受賞

受賞チーム：Team EFREI

工学専攻メディア情報プログラム 青原 光

工学専攻ネットワークプログラム 伊藤 朝陽

情報工学科 目瀬 道瑛

テーマ：「Predic Talk」

概要：JPHACKS は、イノベータを目指す学生を対象とした、国内最大級の学生ハッカソンです。本学学生チーム「Team EFREI」は、英会話中にユーザの発話の続きを AI によって予測し、AR グラスに表示することで英会話に自信がない人でもスムーズに英会話を楽しめるシステム「Predic Talk」を開発し、オンライン審査を経て決勝に進出し、JPHACKS2023 の最終成果発表の Award Day において、ファイナリスト 15 チームの中から、会場内の参加者全員による投票の最多得票者に贈られる JPHACKS2023 Best Audience Award を含む、複数の賞を受賞しました。

